

発掘コラム 呪符木簡とは…? ~伊勢原市 子易・中川原遺跡~

「呪符木簡」とは、信仰や呪術といった呪いのために使用され、災いや邪気を払うための呪文や符号を書いた木札のことを指しています。中世に帰属するものが多いと言われていますが、国内最古のものは7世紀代のものが確認されているようです。

「呪符木簡」には、「急々如律令」や「天罡」といった特徴的な呪句や、「符籙」あるいは「符浄」と呼ばれる、日・月・口・鬼・山・王などの文字をいくつも重ね合わせて記号のような表記を行っているものが多くみつかっており、道教や陰陽道などの影響が窺えます。

「急々如律令」とは中国漢代の行政文書に使用された文言で、元々は「律令に従い至急対処するように」というような定型文であったものが、道教あるいは陰陽道において「悪鬼よ早々に退散せよ」という意味の邪気払いの呪文として使用されるようになったといわれています。今回子易・中川原遺跡で見つかった木簡にも記されていました。

「天罡」とは道教の神であり、北斗星を指しています。天変地異や病を防ぎ、死者を救うとされる呪句で、幸福を祈る言葉とされています。今回発見された木簡では逆さまに表記されており、「罡」にあたる部分の文字が「粟」という文字で表記されていました。「天罡」の「罡」の文字は、しばしば「罡」や「罡」の文字で表記される場合があり、今回のものもこの「罡」の文字の異体字だと考えています。

「符籙」あるいは「符浄」と呼ばれる部分には、ある特定の文字や記号のようなものが重畳して表記されています。今回出土した木簡では、「月」、「日」、「口」が用いられていますが、判読が困難な部分の文字(釈文の赤字で示した部分)は、「山」のようにもみえます。

子易・中川原遺跡で出土した呪符木簡は、端部に折れたような破断面がみられないため、おそらくは完全な状態で出土したものとされます。従って、地面に突き刺して用いたのではなく、軒先に立て掛けたり、掲げたり、あるいは水に流したりといった使い方をしたのではないのでしょうか。



0 5cm

子易・中川原遺跡1区北中世面出土呪符木簡

天

月
月
日

山
口
口
口

𠄎

𠄎

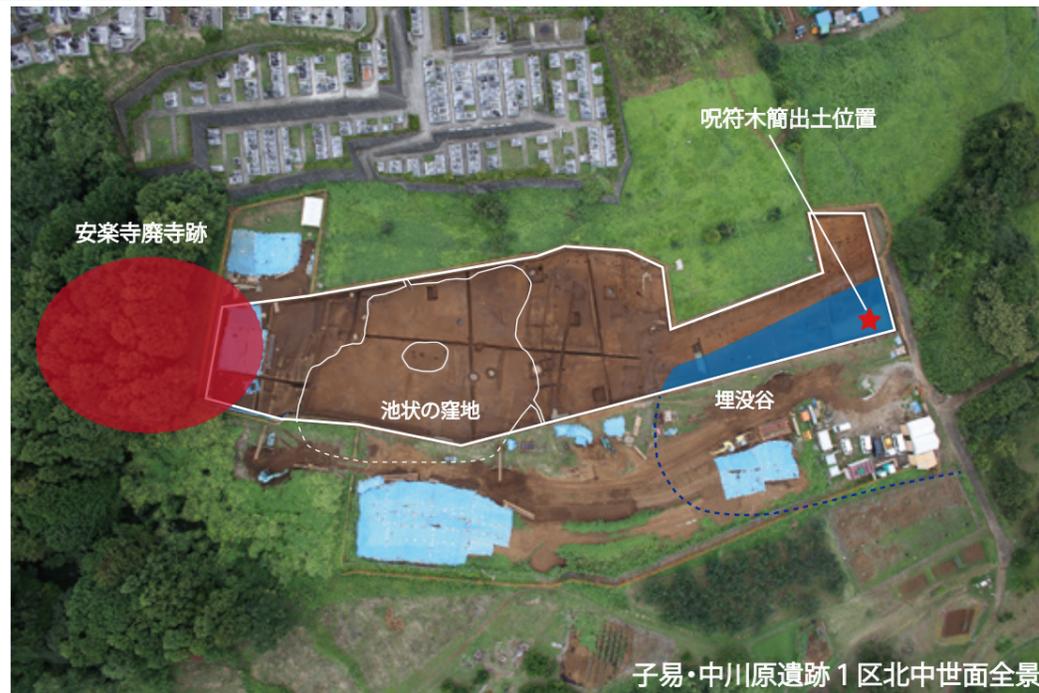
急

々

如

律

令



子易・中川原遺跡1区北中世面全景

発掘コラム 位至三公鏡 ~厚木市 戸田小柳遺跡~

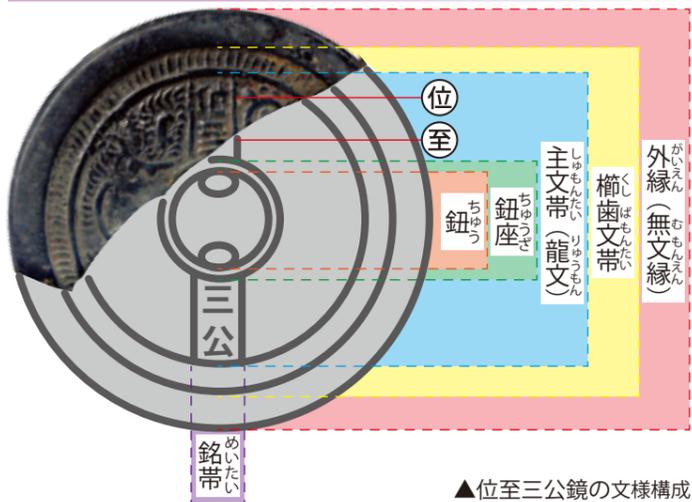


▲戸田小柳遺跡出土 位至三公鏡 (ほぼ原寸)

本遺跡は、小田急線本厚木駅から約3.6km南の厚木市酒井に所在し、相模川右岸の沖積微高地(標高約13~14m)に立地しています。平成24年12月から調査を開始し、平成26年5月から8月までP2東地区の調査を行いました。確認されている主な遺構は、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の溝状遺構です。弥生時代、古墳時代の溝状遺構は平面形、断面形から判断して自然流路と推定されます。古墳時代の溝状遺構はこの地区では5条見つかっており、その中の7号溝状遺構から位至三公鏡(または双頭龍文鏡)が出土しました。鏡は鏡面が上になった状態で出土しています。また、この溝状遺構からは多量の土器が出土しており、古墳時代後期のものが主体であることが分かっています。

鏡は全体の約3分の1が残存し、復元した直径は9.1cm、厚さは1~2mmです。文様構成を復元すると、中心に半球状のつまみがあり、その上に「位至」、下に「三公」という銘文が入り、両脇にS字状の胴体をもつ双頭の龍が点対称に配置され、外周を櫛歯文がめぐり、最外周に文様のない外縁がある、という配置になります。

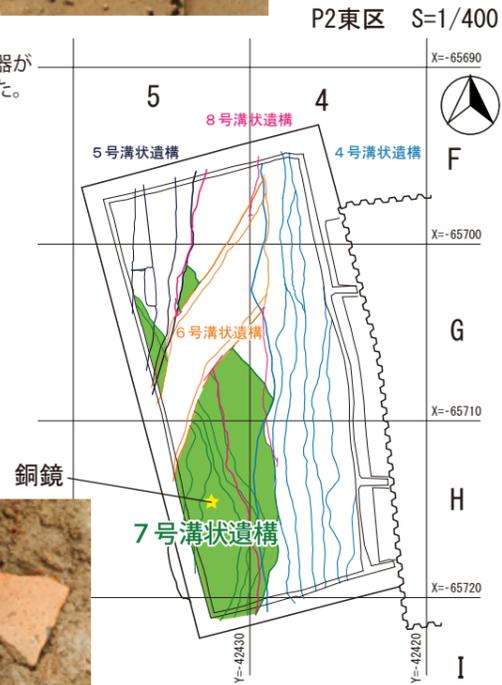
「位至三公(位、三公に至らん)」は、高い位に出世できますよという中国古代の吉祥句です。双頭の龍を主文様とした位至三公鏡は、中国後漢時代の終わりから三国、西晋の時期(およそ2世紀後半から3世紀)にかけて製作され、河南省・陝西省・湖北省などで作られたと推測されています。



▲位至三公鏡の文様構成



▲7号溝状遺構
古墳時代後期の土器が多量に出土しました。



◀鏡の出土状況
鏡面を上にした状態で出土しました。

弥生・古墳時代には、大陸で作られた銅鏡が流入しました。当時の日本列島では鏡は貴重な品であり、権力者の権威を示すため、あるいは神に祈る際の依り代として大切に使われました。日本での位至三公鏡の出土例は30面以上ありますが、そのほとんどは西日本の墳丘墓や古墳からの出土であり、東日本では数例のみ、また今回のように墓以外から出土している例はわずかです。どのような経緯で、製作地から2,000km以上離れた厚木市のこの遺構に大事な鏡が置かれたのでしょうか。遺跡の立地を見てみると、遺跡は相模川の支流である玉川のすぐ西側に位置しています。もしかしたら、人びとが河川交通の安全を願って神様へささげる物として、この鏡が使用されたのかもしれませんが。今回見つかった鏡は小さな破片ですが、様々な想像をかきたててくれる、非常に興味深い資料だといえます。